

第3回大津市中心市街地活性化協議会 議事録

日時：平成20年2月22日（金） 午後1時00分～午後3時00分

場所：明日都浜大津5階 中会議室

参加者： 委員 酒井、石川、丸山、木村、宮崎、三上、山田、上田、別所、青山、
服部、北嶋（中村代理）、戸田、八森、勝部、福井、白井、林、
井上、高田
オブザーバー 沢井、古川
事務局 富江、徳永、西村
大津市 寺田、堀出、高野、高木

（50音順・敬称略）

1．開会（大津商工会議所・徳永）

2．あいさつ（酒井会長）

3．議題

(1)大津市中心市街地活性化基本計画修正（案）について

<意見交換>

- ・旧町名の読み仮名はさまざまな読み方があり整理が必要だろう。また、誤字脱字があるので修正してほしい。
- ・具体的な数値目標や項目別に分けられた実施事業の一覧等があるが、協議会としてはどのようなことまでを話し合ったらよいのか。
- ・掲載している事業の具体化についてはプロジェクト会議で行っていく予定だ。事業の分類は国のマニュアルに沿って支援事業別に掲載している。協議会としては、計画の大きな流れや事業の方向性などについて意見を出し、市はそれを受け止めて修正などを行う。
- ・計画は国の本部と事前協議中であり、その指示に沿って変更する可能性もあるが、国の認定を受けるためには必要なことであり、了承願いたい。
- ・計画に載っていることを協議会で認めるということになるのか。
- ・多様な主体が関わってきて計画づくりをすることになっており、そのため協議会は計画への意見を出す機関となっている。しかし、計画に記載されている事業はそれぞれの主体が決まっていることから、各事業の細かい点について協議会が意見を述べるものではない。しかし、事業者間や関係者間で調整が必要なものについては、プロジェクト会議で検討することになる。
- ・事業において協議中と記載されているものはどのような意図か。
- ・協議中と記載しているものは、事業によってそのレベルが違うが、今後実際に事業化が可能かどうか協議の必要があるものだ。
- ・びわ湖ホールでは、国の文化庁から補助を受けて実施しているものがある。びわ湖ホール

の事業主体は県となっているが、事業の実施者は財団やNPO法人になることが多いため事業主体の欄については協議したい。

- ・ 通行量の目標での寺町通りや町家再生における5年間という表現は分かりづらいので表記方法を検討してほしい。
- ・ 前回配布された基本計画に記載されていた事業はすべて記載されているのか。
- ・ 基本的にはすべて載せているが、補助金の活用等で移動し、統合したものがある。
- ・ 本日の意見をもって協議会からの意見提出としたい。
- ・ 全会一致で協議会からの意見提出について合意し、今後大津市と本部により認定申請の協議を進めることを承認。

(2) プロジェクト会議の体制(案)について(事務局より資料に沿って説明)

意見交換>

- ・ プロジェクトリーダーがメンバーを指名してはどうか。本日提案されたものに入っているプロジェクトリーダー以外の協議会委員は入る必要があるのか。
- ・ プロジェクト会議によって、また実施する事業によってはっきりしていることと、はっきりしていないことがある。どのような人が関わるかはプロジェクトによって違おうだろう。例えばエコセンターは、なぎさ公園オープンカフェ、社会教育会館、環境学習船をすぐに検討する必要がある。これらは別々にするのではなく、一緒に進めた方が良い。あとはリーダーがその都度必要な人を入れることができる。なぎさ公園のオープンカフェであれば、びわ湖ホールに入ってもらった方がよいだろう。オープニングイベントなど連携できると思う。
- ・ 協議会の委員はまちづくりに熱意のある人たちだ。今回提案された人意外にもプロジェクトに入って一緒に検討してもいいのではないか。
- ・ プロジェクト会議は、事業に関係のない人は入らない方がよい。しかし、直接事業を実施する人は入ってもらわないといけない。例えば、町家再生であれば、町家を活用して事業を実施する人は入る必要がある。
- ・ 新規プロジェクト会議として、地域ICカードのプロジェクトを立ち上げたい。京阪で行っているPITAPAとの連携等事業成立性を検討したい。
- ・ 地域ICカードについては、商店街やびわ湖ホールと一緒に協議するのがよいのではないか。
- ・ 平成20年度実施ものについては、スケジュールがタイトだと思うが、どのように進めるのか。
- ・ 平成20年度に事業実施を行い、かつ補助金を活用するものについては、すぐに検討に入る必要がある。その他平成21年度以降のものはゆっくり検討していい。それぞれのプロジェクトで整理が必要だ。
- ・ なぎさ公園オープンカフェについては、まちづくり会社が施設整備を進めることになるが、活性化のためのストーリーであるエコセンターの考え方をしっかり検討し、まちなかとの連携、まちなかでの回遊性をどうつくるかを考えることが重要だ。

- ・いろいろな心配はあると思うが、ここまで来たら進めるしかない。みなさんの協力をお願いしたい。
- ・補助金事業は単年度で完了しなければならない。申請をし、交付決定をもらい事業を年度内に完成させなければならない。5年計画であり、はじめの年度である平成20年度を空白にできない。
- ・おもてなしプロジェクトのリーダーは、福井さんをお願いしたい。これまで浜大津のイベント等に関わり事業をよく知っている。このプロジェクトも平成20年度大津市予算を活用するため具体的な計画検討が必要だ。
- ・前回の会議でも意見が出ていたが、委員だけではなく若い人をプロジェクトのメンバーに入れていきたい。
- ・4つのプロジェクトを立ち上げるということで全会一致。プロジェクトリーダーについても各位承認。(中井委員は欠席しているが承認とみなす)

(3)その他

- ・タウンマネージャーの役割及び選任について
タウンマネージャーについて高田委員より説明後、以下の3点について全会一致で承認。
 - ・タウンマネージャーの選定は株式会社まちづくり大津の役員に一任
 - ・次回4月の協議会でタウンマネージャーを紹介
 - ・紹介をもって協議会のタウンマネージャーとして選任
 - ・タウンマネージャー公募進捗状況(大津商工会議所・徳永より説明)
2月12日からホームページとプレスリリースにより公募。
朝日、産経、中日新聞が掲載。
正式申込は1名。電話1名、窓口1名、本日1名来所予定。
 - ・プロジェクト会議メンバーの追加
勝部、井上委員をおもてなし情報発信プロジェクト会議メンバーとする。
青山委員を町家利活用プロジェクト会議メンバーとする。
 - ・地域ICカード検討プロジェクト会議
商店街等が実施しているすみれカードとの整合性を検討する必要がある。
- 4.今後のすすめ方(大津商工会議所・徳永)
- 大津市が国と協議し、認定申請を進める。
各プロジェクト会議の立ち上げを早急に進めたい。

5.閉会